

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

脱プラ 日本も加速

青く輝く海に面した沖縄、美しい海水浴場の展示スペースには、幅の広いプラスチック50センチのガラスケースが置かれている。

中には透明や黒のポリ袋、ペットボトルの匂いなどのフレンジい山積みされている。1回の排便でウンガメが出したんです。担当職員が説明する。海洋プラスチックは、ホイ捨て



2018/12/14



や風で吹き飛ばすなどして、陸上で適切

に処理されなかったレジ袋などのプラスチック製品が河川に入ると発生する。下流に行くに従って量は増え、やがて海に流れ出す。海洋生物が大粒のごみを誤飲してしまったり、本来の餌が食べられず、栄養失調を招く恐れがある。



藤池保園

伊勢湾
漂着ゴミの状況

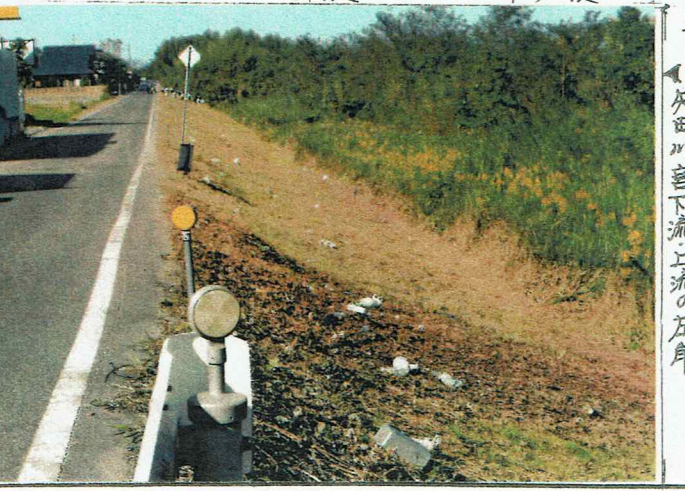


矢田川宮下橋上流

③ 植物由来のバイオマスプラスチックの導入を、30年度のクワンから30年度に約200万トンに拡大するなどを柱とする「プラスチック資源循環戦略」案も決定した。

政府は、具体策として、レジ袋有料化を義務付ける。

尾張旭市役所フロンティアのポネル展示。



矢田川宮下流上流の左岸



2018/12/18